



一歩ふみだす、ぐっと広がる

WAVOC

GUIDE BOOK

早稲田大学　平山郁夫記念ボランティアセンター
The Hirayama Ikuo Volunteer Center, Waseda University

WAVOCは学生の「一歩」を応援する「入り口」です。









早稲田大学　平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）について

2002年4月、本学名誉博士である平山郁夫氏の国際的社会貢献活動とその精神を継承し、
平山氏が推進してきた諸活動をさらに推進・発展させ、
ボランティア活動を広く国内外で展開・支援することにより、
地域社会および国際社会へ貢献することを目的として、設立されました。
以来、早稲田大学の社会貢献推進役として活動しています。



WAVOC

早稲田大学が策定した、創立150周年の姿を示した「Waseda Vision150」のキーワードは、
「世界に貢献する高い志をもった学生」の育成。
世界中から集まった学生が、「主体的に社会問題に気づき、考え、行動し、現場体験の知と学術的な知をつなげること」により、
広い教養と深い専門性を身に付け、卒業後はグローバルな視点で社会に貢献する人材となることを目指します。
WAVOCでは、より多くの学生が国内外の社会貢献活動において活躍できるよう、人材の育成に力を入れています。

WAVOCの理念

1 教育・研究・実践を通して社会貢献を行います

現場体験の知と学術の知を往還することで、
教育・研究・実践が一体となった社会貢献を実現し、
すべての人が平和でより良く生きられる世界の構築を目指します。





2 社会課題に対して当事者意識をもって取り組む人材を育成します

社会課題の構造的な理解と自己変容を促す学びの機会を提供することで、
社会に主体的に貢献する人材を育成します。

3 新しい社会貢献のあり方を創造します

構築してきた価値を大切にしつつ、新しい時代の社会貢献を常に再定義します。
そして、多様性を尊重しあい、先端技術を視野に入れた活動を行うことで、
先駆的で公共性の高い新たな価値を創造します。

教員紹介



兵藤　智佳 准教授

パラスポーツや被災者支援などマイノリティの支援をしています。



筒井　久美子 講師

岩手県陸前高田市で学生の皆さんと一緒にできることを探し実践しています。



岡田　美優 講師

NPOの経営者としてソーシャルビジネスを行ってきた経験を活かして、学生の皆さんと共に世の中をより良くするための取り組みを模索・実践していきたいと思います。



佐野　洋輔 講師

日本の獣害問題やインドネシアの水銀汚染など、国内外の環境問題に取り組んでいます。

※本誌に掲載しているデータ（教職員や学生・活動実績の所属・学年等）は、特に注記がある場合を除き、2026年4月時点の情報です。

WAVOCの教育

「学術の知」と「現場体験の知」の往還。

WAVOCの教育は、学生が「学術の知」と「現場体験の知」を往還して学び、成長することを目指します。

正課では、社会課題の現場に行く「実習科目」を中心とした科目群から、社会貢献・ボランティアの理論と実践を学びます。提供科目を体系的に履修した学生には、全学副専攻『社会貢献とボランティア』が認定される仕組みがあります。

課外プログラムでは、教員が専門性を生かして指導する「早稲田ボランティアプロジェクト」や、ボランティアの入口となる「イベント・セミナー」「スタディツアー」を実施しています。また、学生主体の「サークル」の活動を支援しています。

そして、すべての活動の中で学生が「体験の言語化」を行う点が、WAVOCの教育の特色です。「体験の言語化」とは、学生が自分の活動体験をふりかえり、それを言葉にして語り、社会の課題を発見していく教育手法です。その実践を通して、学生は、社会課題に対する当事者意識を獲得し、さらなる学部での学び(学術の知)へのモチベーションを高めていきます。

WAVOCは、「体験の言語化」を正課科目として提供しつつ、同時に、課外活動の中でも実施しています。

「体験の言語化」を受講した学生の声▶ 詳細は8ページ『学生の声』へ

WAVOCは、体験的に学ぶ科目を提供します。

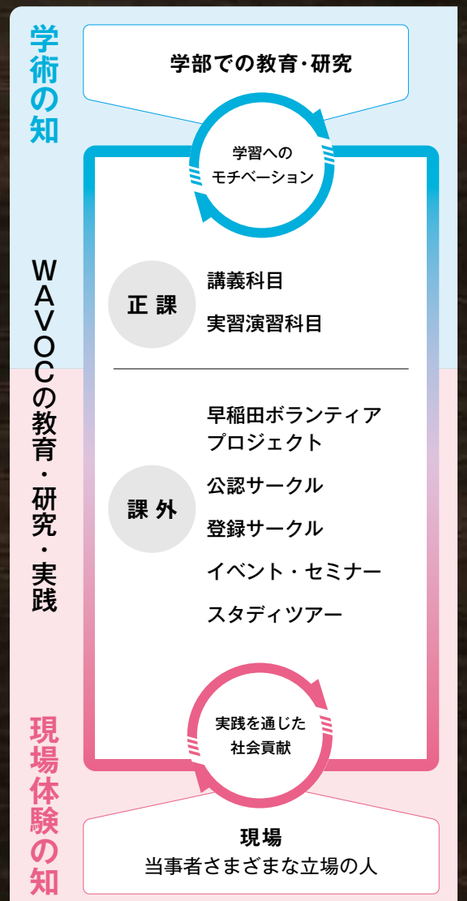
「ボランティアをやってみたい」「誰かのためになりたい」「世界をもっと良くしたい」、そんな想いはありませんか。

「でも、どうしたらいいかわからない」「どこから始めればよいかわからない」。また、「結局偽善ではないか」「自己満足ではないか」「自分がやっても社会は変わらない」と、ためらいを感じていませんか。

そう感じるのは自然なことです。だからこそWAVOCは現場で学び、振り返り、言葉にするプロセスを大切にしています。そしてあなたの視野を広げ、価値観の変化を生み出す科目を提供しています。ぜひ履修してください。

さらに全学副専攻『社会貢献とボランティア』では、WAVOCの科目に加え、各学部で開講している社会貢献・ボランティア関連科目を広く学ぶことができます。

さらに詳しい情報はこちら▶ 提供科目



WAVOCボランティア・アクションマップ

STEP		STEP 1 社会貢献したいので、どんな課題があるかを知りたい	STEP 2 どうやって課題を解決するか、具体的なアクションを学びたい	STEP 3 これまでのアクションをふりかえり、課題の背景を考えたい	STEP 4 さらに新しいアクションに挑戦したい
科目	実習科目	● 東日本大震災のフィールドワーク1、2	● 狩猟とジビエから考える地域貢献2 ● パラスポーツとボランティア ● 自然観の再構築とボランティア	● カナダから見るグローバル市民学	
	講義科目	● ボランティア入門1 ● ボランティアから見る世界1、2 ● ボランティアの現場と社会学α、β ● 経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献1、2 ● 社会貢献を仕事にする ● 狩猟とジビエから考える地域貢献1	● ボランティア入門2 ● SDGsと社会貢献1、2 ● フィールド・ワークと社会貢献α、β ● グローバル社会貢献論 ● スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性1	● ボランティアとその価値	● グローバルヘルス
		● 体験の言語化　● ファシリテーションとボランティア			
	プロジェクト	● ソーシャルビジネス起業プロジェクト ● 陸前高田プロジェクト	● パラスポーツ子どもボランティアプロジェクト ● 災害ボランティア研究会	● グローバル・シティズンシップ教育ユニオン	
課外活動	スタディツアー	● 富良野自然体験スタディツアー ● 気仙沼・陸前高田スタディツアー「復興まちづくりとマラソンボランティア」 ● まつだいスタディツアー「アートを支える」	● 福島スタディツアー「福島でアート」 ● カナダスタディツアー ● 輪島復興スタディツアー ● マレーシアスタディツアー ● 陸前高田スタディツアー		
	災害ボランティア		● 能登半島地震・豪雨災害復興支援ボランティア		
	入門ボランティア	● 高尾の森づくりボランティア ● 農業体験ボランティア ● フードバンクボランティア ● 子ども食堂ボランティア ● 障がい者支援ボランティア ● パラスポーツ運営ボランティア ● 生物多様性の保全ボランティア ● 音楽ボランティアなど			
	イベント・セミナー	● ボランティア・カフェ　● ボランティア・アカデミー	● ボランティアコンテスト		



※2025年度実績、2026年度予定より抜粋

科目紹介 1 体験の言語化

自分が心に引っかかった体験を思い起こし、その体験を改めて捉えなおす中で、個人の体験を単なる個人的な経験ではなく、社会の課題に結びつけ、自己を社会に文脈化する思考プロセスを学びます。



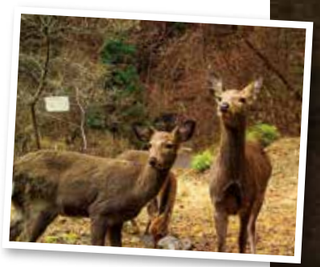
科目紹介 2 社会貢献を仕事にする

社会課題の解決を仕事にしたい人に向け、本授業では、若手社会起業家との対話を通じて、社会貢献とキャリアを両立する道を学び、自身の将来像を考えます。社会に関わる多様な働き方を知り、将来の進路選択の視野を広げます。



科目紹介 3 【実習科目】狩猟とジビエから考える地域貢献2

日本の農山村では、鳥獣被害の深刻化により農林業が衰退し、さらなる過疎化が進んでいます。本科目では、農山村での実習を通じて、狩猟による害獣の捕獲やジビエ(野生鳥獣肉)活用の取り組みを学び、獣害対策のボランティア活動を体験することで、地域貢献のあり方を考えます。

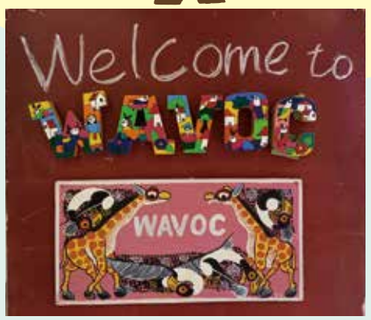


WAVOCを 活用しよう

WAVOCで
できること

ボランティアに関する相談

教職員、学生スタッフが相談にのりますので、はじめての人でも
安心です。通常の相談は、予約不要です。お気軽にお越しください。
より専門的な相談には、教員によるボランティア・アドバイザー制度
を利用できます。



ボランティアの情報収集

WAVOC主催のボランティアはもちろん、社会福祉協議会を
はじめ、WAVOCの方針に合った学外団体の情報も紹介して
います。地元での活動など、身近なボランティアが
見つかるかもしれません。ウェブサイトにも募集中の
ボランティアやイベントを掲載しています。



図書の閲覧

ここにしかない図書がたくさんあります。
ボランティアや社会貢献に関する図書を揃えています。
テーマ別に並んでいるこれらの図書は、GCC Common Room
（早稲田キャンパス27号館1階）で閲覧できます。
ボランティアや社会貢献について知見を深めたい方は
ぜひお手に取ってみてください。
（開室時間内に利用可能です。）





ボランティアへの参加

WAVOCはボランティアやセミナー、交流会など、さまざまな活動を
用意しています。初心者・一人での参加も歓迎です。
教職員や学生スタッフがサポートしますので、ぜひご参加ください。
また、「こんなボランティアをしてみたい」というご希望がありましたら、
ご相談ください。







ボランティア・カフェ

「WAVOC ボランティア・カフェ」、通称「ボラカフェ」は、ボランティアを
キーワードに、学生スタッフが企画する交流イベントです。
ボランティアやWAVOCについて知ってもらう機会を提供し、学生サー
クルを含めた早大生同士の交流を広げています。また入門ボランティ
アの紹介やWAVOCの活用方法、先輩の体験談、早大生だからこそでき
るボランティア活動、今後のボランティア情報などを届けています。



ボランティアサークルでの活動

早稲田大学には多くのボランティアサークルがあります。
所定の条件を満たしたサークルに所属すると、
施設利用や広報面でのサポートを受けながら活動することができます。
さらに、サークル同士の交流イベントなどに参加する機会もあります。





WAVOC
学生スタッフリーダー（SSL）

WAVOC学生スタッフリーダーは、WAVOCで教職員と協働し、
学生がボランティア活動を通じて「一歩ふみだす」機会を
支える学生スタッフです。
学生目線で「つくる（企画）」「つなぐ（連携）」「見せる（発信）」を
軸に、皆さんの行動を応援します！
（学生スタッフを募集する際は、WAVOCウェブサイトに
掲載します。）

さらに詳しく▶



自分に合ったボラン ティアに参加しよう



長期で活動するプロジェクトやサークルから、
短期間、単発のボランティアや宿泊を伴うスタディツアーなど、
さまざまな活動機会を用意しています。
ご自身の興味・関心に合った活動に参加してはいかがでしょうか。



WAVOC主催ボランティア

WAVOCは学内外でのボランティア活動やスタディツアー、セミナー、交流会などを開催しています。また、自然災害発生時は、被災地での災害復興支援ボランティアにも取り組んでいます。いずれの活動も教職員、学生スタッフが引率しますので、初めての方でも安心です。
継続的な活動から一日だけの活動もありますので、
まずは一回、ぜひ参加してみてください。

募集中イベントは
こちら▶



入門ボランティア

ボランティア活動が初めての方でも安心して参加できる、WAVOCの入門的なプログラムです。一日だけの参加もできます。

活動例
- 高尾の森づくり
- ビーチクリーン
- 車いすクリーニング
- 子ども食堂



スタディツアー

国内外の地域を訪れ、現地の人々との交流やフィールドワークを通じて、地域の課題に向き合い、考えを深めるプログラムです。

活動例
- カナダスタディツアー
- まつだいスタディツアー
- 気仙沼スタディツアー

ボランティア・アカデミー

WAVOCが主催するセミナーやワークショップです。社会課題への理解を深め、自らの関わり方について考えていきます。

活動例
- 災害復興×未来 ボランティア
- 首都直下型地震に備えよう









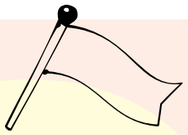






WAVOC支援ボランティアサークル

早稲田大学には多くのボランティアサークルがあります。
地域交流、環境、防災、教育、国際交流、農業など、国内外のさまざまなフィールドで学生たちが活動しています。
毎年４月に開催している「ボラカフェ」（新歓）では多くのボランティアサークルがブース出展を通して活動紹介を行い、「ボランティアプレゼンコンテスト」ではテーマに沿った発表を行っています。







さらに詳しく▶





早稲田ボランティアプロジェクト（ワボプロ）

WAVOCの教員それぞれの専門性を活かし、その指導の下、年間を通して取り組むプロジェクト型の活動です。
活動地への貢献にとどまらず、学生自身が主体性をもって取り組み、成長していくことをサポートします。

さらに詳しく▶











Check!!

学外団体主催ボランティアに参加する前に

WAVOC以外の学外団体が主催するボランティア活動に参加する場合は、ボランティア活動中の万が一の事故や怪我に備え、ボランティア保険に加入しましょう。お近くの社会福祉協議会で加入できます。
保険は年度で有効です。
4月になりましたら、更新（再加入）を忘れずに。



さらに詳しく▶

学生の声

ボランティアを通じて世界が違って見えるようになった



「BORDER FREE」代表　石井 陽斗 さん（商学部４年 ※2024年度時点）

小学生から高校生までの子どもたちへの学習支援を中心に活動する団体、「BORDER FREE」。参加するきっかけは、シンプルに友人から誘われたことでした。最初のころ自分は正直なところ、ボランティアには興味がありませんでした。しかし、団体の黎明期に友人に呼ばれて「団体を手伝ってほしい」と言われて、ちょうどその時大学二年生で時間にも余裕があったことから、「じゃあ手伝ってみようかな」と思い、関わるようになったのがきっかけでした。

他にもたくさん居場所づくりの団体はあると思うのですが、BORDER FREEの魅力としては「子どもたちに対して、多様なかかわり方ができること」があると思います。

さらに詳しく▶



「陸前高田プロジェクト」に参加　村上 彩 さん（法学部４年 ※2025年度時点）

祖父母の家が陸前高田市にあり、遠方に住んでいたこともあって、今まで何もできなかったので、大学生となった今、地域のために何かしてみたいと思い、参加しました。

主な活動は２つあり、私は「光ノ碑（ひかりのいしぶみ）」プロジェクトをメインに活動しています。高田松原津波復興祈念公園の防潮堤をライトアップする催しを3月8日から11日までの4日間にわたって実施しました。

来場者がメッセージを書いて貼る「光ノ手紙」という企画も実施しました。訪れていただいた方々からは「静かだけれど寂しくない、いろいろな思いの人や多様な世代が集まっていた柔らかい場所」との声をいただきました。

さらに詳しく▶

「体験の言語化」を受講した学生の声　── WAVOCでの活動を通して得たもの ──

金岡 晃佑 さん（商学部３年 ※2025年度時点）

WAVOCの「体験の言語化」という授業を通して、私は「本当の課題や学びは、目に見える出来事そのものではなく、その裏側に潜んでいることが多い」ということを学びました。出来事を丁寧に振り返り、言葉にすることで、それまで見逃していた自分の気持ちや大切な学びに気づけるようになったと感じています。

また、私は早稲田ボランティアプロジェクトの一つであるソーシャルビジネス起業プロジェクトにも参加しており、その活動を通じて、１年半の間に能登をボランティアとして９回訪れました。活動を重ねる中で、この春から能登に半年間住むことを決めました。最初は「好きな町に貢献したい」という思いからだと思っていましたが、振り返ってみると、必ずしも最初から強い思いがあったわけではありません。

初めは「少し気になるから行ってみよう」という軽い気持ちで、その後も活動が楽しいから続けていただけでした。しかし、活動を続ける中で、普段は穏やかな能登の方々が「仮設住宅ではなく、元の町に戻りたい」と強く語られる姿を見て、この町の人たちに何か恩返しがしたいと思うようになりました。

頑張って問題を解決しようとしたからではなく、楽しく関わり続けたからこそ生まれた気持ちだと、言語化を通じて気づくことができました。私にとって本当に大切だったのは、画期的なアイデアよりも、「楽しい」という感覚や人への感謝の気持ちであり、WAVOCでの活動はそれに気づかせてくれる大きな成長の機会だったと感じています。



WAVOC所長
メッセージ



早稲田大学平山郁夫記念
ボランティアセンター
所長 松居 辰則
（人間科学学術院教授）

『社会貢献活動で先頭に立つ人材の支援を』

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）は2002年に設立され、早稲田大学の教育、研究に次ぐ使命である社会貢献活動の推進役を担っています。

地球規模の問題が多数に存在する今日の社会に学生を送り出すには、大学が知識を教授するだけではなく、知識に加えて、社会貢献活動への意識を高めて主体的に担える力が必要です。WAVOCでは様々な社会活動を通じた体験的な学びの場を広く提供しています。

さて、早稲田大学では教育・研究のポリシーとして「人間的力量」を持った人材の育成を目標としています。「人間的力量」とは次のように説明されています。

『地球上のどこに行っても人々の幸福の実現を目指す強い意志を持ち、多様な文化と価値観を尊重し、その地域を愛することで人々の心を動かし、社会が直面する問題を協力して解決しようと、他の為に貢献する精神と行動力』

そして、この「人間的力量」には「たくましい知性」、「しなやかな感性」、「ひびきあう理性」を備えることが必要であるとも説明されています。「たくましい知性」とは明確な答えのない課題にも果敢に挑戦し、解を導く能力を指し、これは各学部の専門教育や全学基盤教育がその礎を築きますが、ボランティア活動はまさに明確な答えのない課題解決の連続です。一方、「しなやかな感性」とは様々な状況での多様性を享受し、共感力を持って人々をまとめ上げリードする力を指します。さらに、「ひびきあう理性」とは自分と異なる考えを持つ人の意見にも耳を傾け、対話を通して互いに高めあうことの重要性を問いかけています。WAVOCは「ボランティア」を通して、これら「たくましい知性」、「しなやかな感性」、「ひびきあう理性」を育成するための様々なプログラムを準備しています。具体的にはボランティア活動の基盤となる講義、体験型授業、ワークショップ、国内外での活動、様々なイベント等です。理論のみならず実践を通して、理論と実践のサイクルの中で自らの力量として習得するための機会を提供しています。

新しい時代に向けて大学の機能は大きな変革が求められています。WAVOCも今までの「ボランティア」の範囲と方法を再定義して、研究・教育・実践が一体となった新しいボランティア活動を教育プログラムとして提供してまいります。WAVOCはこれからもより多くの学生が「人間的力量」を備えた真のグローバルリーダーとして活躍できる人材となれるよう今後も一層支援してまいります。



被災地支援活動に取り組んでいます

WAVOCは、自然災害の被災地に学生ボランティアを派遣し、復興支援活動に取り組んでいます。
その活動内容は、泥かきや流出物の撤去にはじまり、復興イベント・観光支援、スポーツ・文化交流、
仮設住宅でのコミュニティづくり、子どもを対象とした学習支援、翻訳など多岐にわたります。
教職員と学生スタッフが企画・引率し、安全に配慮して継続的に派遣します。

「被災地のために自分たちにできることはないか」

そのような熱い思いを持つ学生たちを、WAVOCは支援しています。



学生災害支援ボランティアの 心得10か条

WAVOCはこれまでたくさんの学生ボランティアを応援してきました。
この10か条はそうした私たち学生ボランティア支援者が持つ、言葉にはしていなかった経験知を短くわかりやすい言葉で表現したものです。

第1条　ボランティア保険（災害プラン）に入る
ボランティアの基本は「自己責任」です。何か事故や病気があっても自分で対応することになります。
保険に入ることはそのための準備になります。

第2条　不眠不休で頑張らない
被災地では気持ちも高ぶり使命感から精一杯活動することになりがちです。しかし、疲労から体調を崩すのは相手に迷惑になります。活動中でも休む判断をすることが大切です。

第3条　被災地では信頼できる人と一緒に行動する
活動をするにあたっては安全に十分に注意してください。被災地で起こりがちな危険な問題に巻き込まれないためにもできるだけ単独行動は避けてください。

第4条　まずは相手の話を共感的に聞く
被災者を少しでも元気づけようと「○○さんの分まで頑張ってください」「元気になってください」と言いがちです。励ましの言葉を軽々しくかけないことも大切です。

第5条　被災者が自分たちでやる仕事を取らない
被災地に行くとできることをすべて「やってあげたい」という気持ちになりがちです。しかし、復興するのは現地の人たちです。その力をどう応援できるかが大切です。

第6条　涙が止まらなくなったら活動をやめる
悲惨な現状や嗚咽する人などに接する場合、自分も心の傷を受けることがあります。自分の心をコントロールできない時はその場から離れたり自宅に帰る決断をしてください。

第7条　できないことは「出来ません」とはっきり断る
被災した人の依頼を断るのは難しいことです。しかし、無償のボランティアでも「やります」と言ったことには責任が伴います。無責任にならないように行動することが必要です。

第8条　相手の感情に巻き込まれ過度な哀れみや同情をしない
被災者の話を聞くことで感情が揺さぶられることもあります。しかし、「かわいそう」と思うことが相手の支援になるわけではないことを知っておきましょう。

第9条　子どもと遊ぶときなどは過度に喜ばせようとしない
ボランティアのお姉さんやお兄さんと遊ぶ体験は子どもにとってはうれしい時間です。しかし、非日常で興奮したあとの面倒は誰かが見ることを意識してください。

第10条　ボランティア活動の運営について批判はしない
被災地のボランティア活動では「仕事がない」、「指示が悪い」などの批判もあります。しかし、憤慨しても何も生まれません。できることは何かを自分で考えて行動しましょう。



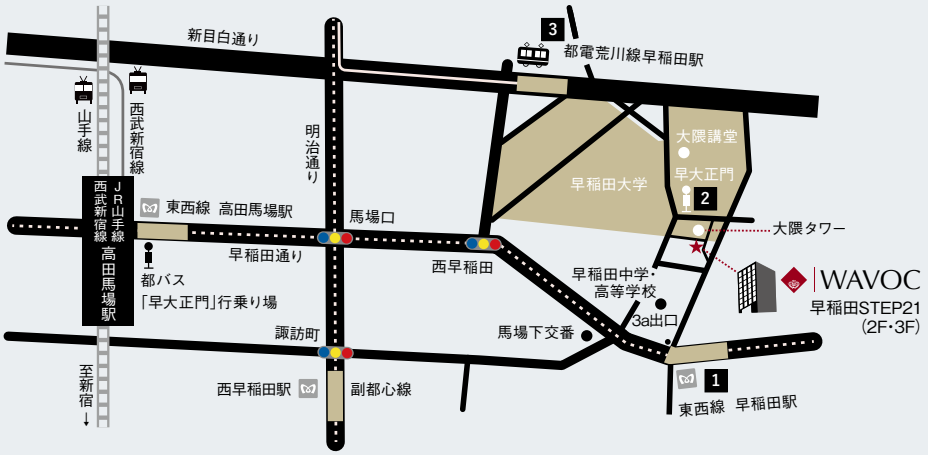
WAVOCの活動をご支援ください！

さらに詳しい
情報はこちら▶

WAVOCでの各種活動を、資金面から支えてくださる方を広く募集しています。
みなさまからのご支援は、災害復興支援に関わる活動をはじめ、
学生主体の社会貢献活動や国内外での実践活動など、
さまざまな現場の活動資金として活用されます。
あわせて、社会貢献スピリットを持つ未来のリーダー育成にも役立てられています。
WAVOCが支援している特定のサークル・団体への指定寄附も可能です。
ぜひ、WAVOCの活動へのご支援をよろしくお願いいたします。



Access



1 東京メトロ東西線「早稲田駅（T04）」3a出口より徒歩5分
2 JR山手線／西武新宿線「高田馬場駅」より徒歩20分、またはバスで「早大正門」下車徒歩1分
3 都電荒川線「早稲田駅」より徒歩8分

早稲田大学　平山郁夫記念ボランティアセンター
The Hirayama Ikuo Volunteer Center, Waseda University

開室時間：平日 9：00〜17：00（土日祝日及び大学一斉休業日は休室）
〒169-0071 東京都新宿区戸塚町1-103 早稲田STEP21（早稲田キャンパス99号館）
TEL：03-3203-4192　E-mail：wavoc@list.waseda.jp

最新のボランティア活動や各種イベント情報はこちら

WAVOCウェブサイト
https://www.waseda.jp/inst/wavoc/

@wavoc.waseda

Facebook

WAVOCメールニュース
ボランティアやイベントの情報を受け取れます。

@waseda_univ_WAV

YouTube